



あこう通信

～「いい顔 いい声 いい心」～



発行：令和5年9月26日（火）NO.13 文責：副校長 津田 幸一

学校HP URL <http://www.nagasaki-city.ed.jp/kosakaki-e/index.html> （2次元コードからどうぞ）

小櫛小のシンボルツリー あこうの木

なぜ、岡の上の校庭に、海岸端にあるイメージのあこうの木があるのでしょうか？

気になって、本校勤務歴が長い先生に聞きましたが、わからないという状況です。

そこで、自由研究をしてみました。

平成25年度学校だより第10号に、当時の榊田校長先生が、「シンボルツリー」あこうの木についての思いを記されていました。

・・・たくましく、強い木です。永く元気にすくすく育ってきた「あこうの木」、本校にとっては、子供たちの成長を50年間見守ってきてくれた大切な木です。校舎移転が決まった今、このあこうの木をもっていくことはできないでしょうか、食べられる実から、幼木を育て、防風林の一部として植えることはできないか？移転に伴い、プロジェクトチームは結成できないか？と密かに考えている私です。

その後、平成27年度の第6号には、あこうをなんとか新校舎へという願いから、有志が旧校舎のあちこちに芽を出した「あこう2世」の幼木を植木鉢に植え直した様子が記されていました。

そのうちの1本が現校庭に植樹されたということでしょうか？

どなたか御存じの方がおられたら教えてください！



修学旅行（9/12～13）

1日目 熊本城～エルパティオ牧場

2日目 グリーンランド

天候にも恵まれ、各体験を満喫してきました。この学びを生かしていきます！



心が動く体験をする・語彙を増やす

10だんとべた

A（6歳）

きょう、とびばこ9だんとべたをとべました。とびばことんだとき、先生が、Aくん、とびばこ9だんとんだやんと言ってくれました。ぼく、とってもうれしかったです。こんどは、とびばこ10だん、せったいに、がんばってとぶからね。お父さん、お母さん、先生、それまでおたのしみにまわってね。

ぼく、とびばこ9だんとべたのもうれしかったけど、Bくんがすごかったんだよ。

だってね、とびばこ10だんとんだんだから。ぼく、Bくんってすごいなあとおもいました。Bくん、とびばこ10だんとんだあと、あとなんだんとぶのん。あすのあさ、Bくんにきいてみようとおもいます。きょうはおうちで、とびばこ10だんとべたおいわいしているのかなあ。

Cくん、ぼくといっしょに、とびばこ10だんとべれるように、いっしょにがんばろうね。

（朝日作品コンクール入選作）

※Aくん、Bくん、Cくんの表記修正は津田

ある全国作文コンクールの入選作です。作者が1年生ということにびっくりしますが、それ以上に内容が心に響く文章です。

「ぼく」は跳び箱9段に挑戦して跳びました。その喜びは大変なもので、「ぼく、とってもうれしかったです」と記しています。

また、10段跳ぶという次の目標も立てています。そして、家族や担任の先生にその実現を待っていてほしいと記しています。

とても素直で前向きなお子さんなのだなあと感じます。

これだけでも素晴らしい作文だと思いますが、この作文の肝は後半です。人というものは、なかなか他人の幸せを祝福してあげられないものですが、「ぼく」は決してそうではありません。

Bくんが10段跳べたことを、まるで自分のことのように喜び、感心し、祝福しています。そして、Bくんがさらに高い段を跳ぶことに胸を躍らせています。

こういった心の動きを、1年生なりに語彙豊かに、美しい言葉遣いで、しっかりと表現しています。

そして、何より、「ぼく」のやさしい人柄が伝わってくる文章です。

心が動く体験をする・語彙を増やす

この2つが、このような文章が書けるようになるために必要なことだと思っています。

学校で精一杯「よく遊び、よく学び、よく働く」。

そして、その体験を、御家族に前のめりで話そうとする小櫛っ子になってほしいと願っています。